



# EAワークショップ 指標の選び方&指標信頼性・ 妥当性のチェックリスト



Evaluability

平成27年  
1月29日(木)

10:30~16:00

※10:00受付開始



Assessment

学術総合センター11階  
(東京都千代田区一ツ橋2-1-2)

大学評価・学位授与機構  
竹橋オフィス1112会議室



Phase 3.5

参加費： 無料  
定員： 25名\*

\*定員の都合上、先着25名まで  
とさせていただきます。

## 想定する参加者：

これまでの研修会等(平成24~26年開催の「大学評価担当者集会」第三分科会、「自己評価能力を高めるための目的・計画と指標の作り方に関する研修会」〔平成25年2月8日開催〕、「自己評価能力を高めるための目的・計画と指標の作り方(ステップ1&2)」〔平成25年11月20日開催〕でステップ1&2の講義を受講いただいた方、またはPCM(プロジェクト・サイクル・マネジメント)について知識を有する方。

### <申し込み方法>

申し込みは、以下の必要事項をご記入の上、  
hyokikaku2@niad.ac.jp 宛にメールにてご送付ください。

【必要事項】(1)お名前、(2)ふりがな、(3)所属機関、(4)所属部署、(5)役職・職名、(6)電話番号、(7)E-Mailアドレス、(8)評価や計画との関わり(班分けの際の参考にさせていただきます)でございますので、ご記入ください

# ワークショップのねらい

大学評価・学位授与機構のEA (Evaluability Assessment) 研究会で開発している教材及びコンテンツを基に、自己評価能力を向上させるための基本的な視点を学ぶとともに、計画立案段階で現行の課題や問題を可能な限り把握し、適切な指標等の設定を行うためのワークショップを開催させていただきます。

本ワークショップでは、適切な指標の設定に焦点を当てます。従来のEA教材を用いて指標を選定したうえで、選定された指標の信頼性や妥当性を確認するためのチェックリストを紹介し、その使い方について議論します。

表1：EA教材の各段階と獲得することが期待されるスキル

段階	EA教材の内容	獲得することが期待されるスキル
ステップ1 〔おさらい〕	関係者（ステイクホルダー）の把握、課題の分析	○自らの大学の現状と課題を体系的に整理する思考方法やスキル ○教育の質向上という視点で、大学の諸活動の中から課題を発見し、その周辺の因果関係の整理を行うことができるスキル
ステップ2 〔おさらい〕	目的の整理、計画の作り方	○目的を体系立てて整理する思考方法、目的体系図から計画アプローチを見出すスキル ○因果関係を逆にたどることで、課題解決のためのアプローチを考えることができるスキル
ステップ3 〔今回のテーマ〕	指標デザインとデータの整理	○ステップ1 & 2で考案した課題解決のためのアプローチ（課題を解決するという目的に沿った計画の作り方）に対して、適切な指標を提案するスキル
ステップ4 〔ツール構築中〕	効果的・効率的な評価	○評価の目的を明確にし、協力体制の構築や評価結果を有効に活用するためのマインドセットに繋げるスキル

## タイムテーブルと研修内容

10:30～10:35 主催者挨拶

10:35～12:30 講義1・演習

○講義1では、ステップ1&2のおさらい、ステップ3の説明及び指標設定において留意すべき点等について説明します。

○演習では、大学の目的・計画にあった指標の導き方と指標設定に係るグループワークを実施します。

・グループ分けについては、運営をスムーズに進めるため、事務局で行います。

・各グループには、EA教材の開発に携わっている研究会メンバーがファシリテータとして参加させていただきます。

12:30～13:30 昼食・休憩

13:30～14:00 演習結果の発表

○グループごとに行っていただいた指標設定に係る作業の結果を発表していただきます。

14:00～14:50 講義2

○講義2では、新たに開発した指標の信頼性・妥当性を確認するためのチェックリストを紹介します。

14:50～15:00 休憩

15:00～15:50 グループ討議

○グループ討議では、演習で作業いただいた指標設定の結果を用いて、講義2のチェックリストの使い方について議論していただきます。

15:50～16:00 総括

表2：各段階における研修内容

（今回のワークショップはステップ3の内容で実施します）

### 「ステップ1：関係者の把握、課題・問題の分析」

・関係者を把握し、大学における諸活動から課題を発見します。課題を複数挙げ、その課題の原因を考えつつ、課題（原因→結果のペア）をグループ化していきます。  
・途中で、中心的な問題が見えてきますので、それを中心に各グループに関連づけていきます。（中心になる問題をどう設定するかは、グループのメンバーの考え方や活動を取り囲む環境によって異なります。）  
◇これらの作業によって、各課題の因果関係を明確にします。

### 「ステップ2：目的の整理、計画の作り方」

・ステップ1で分析した「原因→結果」を「手段→目的」とリバーシさせることで「こういう原因でこういう課題が発生している」ということが「ここをやれば、この課題が解決できる」という図になります。この図を目的系図といいます。  
・目的系図は、いくつかの課題をひとまとまりにし、グループ化したわけですが、課題が適切に関連づけられた目的系図があれば、「改善計画」が見出しやすくなります。  
◇課題を原因と結果の因果関係で整理することで、解決と改善のアプローチを見出します。

### 「ステップ3：指標デザインとデータの整理」

・改善計画を実施する際の指標を考えます。課題は「目的→手段」という単位で最初に整理をしているため、この単位ごとに指標を考えていきます。  
◇指標を設定すれば、あとはその指標が現在どうなっていて、それをどうしたいのか、ということで改善計画を現実化し、それに沿って行動できます。この指標を用いて進行管理をするという、評価担当者の責務を果たすためのヒントを見出します。

<問い合わせ先>

大学評価・学位授与機構 評価事業部 評価企画課 企画第5係

Tel : 042-307-1617 / Fax : 042-307-1622 E-mail: hyokikaku2@niad.ac.jp